

平和を守る全国弁護士会アクションの日

『標的の村』『沖縄スパイ戦史』

三上智恵監督最新作

「国防」をうたい 棄民亡国へ突き進む人々へ 島々から平和への切なる祈りを込めて

戦雲

いくさふむ

2015年9月30日に集団的自衛権行使を容認した安保関連法が成立してから今年で10年になります。

この間、米軍の普天間基地の辺野古移設問題がマスコミを賑わす一方で、南西諸島においては自衛隊駐屯地が開設され、ミサイルが配備されるなど、軍事要塞化が急速に進んでいます。

太平洋戦争で悲惨な戦場となった沖縄の島々が、また戦争の危険に晒されようとしています。これは決して沖縄や南西諸島だけの問題ではありません。

三上智恵監督は、その現状を8年にわたって取材し、ドキュメンタリー映画「戦雲」を完成されました。

戦後80年を迎えた今、この映画を通じ、戦争が身近で差し迫った問題であることを改めて考えてみませんか。

(C) 2024『戦雲』製作委員会

2025年11月1日(土曜日) 入場無料・予約不要
午後1時～4時30分(午後0時30分開場)

にぎわい交流館AU 3階多目的ホール 秋田市中通1-4-1

第1部 映画「戦雲」上映 第2部 講演 三上智恵 監督

秋田弁護士会 主催

「憲法を考える市民集会」

共催 日本弁護士連合会・東北弁護士会連合会(予定)

お問い合わせ 秋田弁護士会 〒010-0951 秋田市山王6丁目2-7

〔電話受付 平日 9:30～16:30〕 TEL 018-862-3770(代表)



秋田弁護士会マスコットキャラクター



<https://akiben.jp/>

本当の「国防」とは何か？

圧殺されるのは沖縄の声だけではない

沖縄本島、与那国島、宮古島、石垣島、奄美大島

この美しい島々で、日米両政府の主導のもと急速な軍事要塞化が進行している。自衛隊ミサイル部隊の配備、弾薬庫の大増設、基地の地下化、そして全島民避難計画……。2022年には、「台湾有事」を想定した大規模な日米共同軍事演習「キーン・ソード23」と安保三文書の内容から、九州から南西諸島を主戦場とし、現地の人々の犠牲を事実上覚悟した防衛計画が露わになった。しかし、その真の恐ろしさを読み解き、報じるメディアはほとんどない。全国の空港・港湾の軍事拠点化・兵站基地化が進められていることをどれほどの日本人が知っているか。本当の「国防」とは何か。圧殺されるのは沖縄の声だけではない。

『標的の村』『沖縄スパイ戦史』

三上智恵監督

6年ぶり、渾身の最新作

本作は2015年から8年かけ沖縄・南西諸島をめぐり取材を続けてきた映画監督でジャーナリストの三上智恵による渾身の最新レポートである。タイトルは、山里節子さんが「また戦雲が湧き出してくるよ、恐ろしくて眠れない」と歌った石垣島の抒情詩とうばらーまの歌詞に由る。映画が映し出すのは、民意を置き去りにしたままなし崩し的に進む戦力配備の実態だけではない。過酷な歴史と豊かな自然に育まれた人々の暮らしや祭り——それらこそ、まやかしの「抑止力」の名のもとで今まさに蹂躪されようとしているかけがえのない何かであり、私たちの希望と祈りの源にほかならない。

沖縄本島から約509km

与那国島

町に何も知らされないままミサイル基地建設が決まり、戦車やPAC3積載車が公道を走る島に。



石垣島

若者主導の住民投票運動は市政に潰され、ミサイル基地が島の真ん中にできた。



宮古島

集落の程近くにミサイル基地、射撃訓練場を備えた弾薬庫も完成した。



沖縄本島

島々に配備されたミサイル基地統括本部がまもなく完成。民間の港が次々と軍事訓練に使われている。

映画監督／ジャーナリスト

今からでも遅くはない。共に目撃者になり、今という歴史を背負う当事者になってほしい。

三上智恵

みかみ・ちえ
監督：三上智恵



入場無料
予約不要

映画監督、ジャーナリスト。1987年、アナウンサー職で毎日放送に入社。95年、琉球朝日放送の開局時に沖縄に移住。同局のローカルワイドニュース番組のメインキャスターを務めながら、「海にすわる～辺野古600日の闘い～」「1945～島は戦場だった オキナワ365日～」「英霊が大死か～沖縄から問う靖国裁判～」など、沖縄の文化・自然、社会をテーマに多くのドキュメンタリー番組を制作。2010年、日本女性放送者懇談会放送ウーマン賞を受賞。12年に制作した『標的の村～国に訴えられた沖縄・高江の住民たち～』は、ギャラクシー賞テレビ部門優秀賞、座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル大賞など多くの賞を受賞。13年に映画版『標的の村』で映画監督デビュー。14年にフリー転身。15年に『戦場ぬ止み』、17年に『標的の島 風かたか』、18年に『沖縄スパイ戦史』（大矢英代と共同監督）を発表。著書に『戦場ぬ止み 辺野古・高江からの祈り』（大月書店）、「女子力で読み解く基地神話」（島洋子氏との共著／かもがわ出版）、「風かたか『標的の島』撮影記」（大月書店）など。「証言 沖縄スパイ戦史」（集英社新書）で石橋湛山記念 早稲田ジャーナリズム大賞 草の根民主主義部門大賞、城山三郎賞、JCJ賞を受賞。24年1月17日に「戦雲 要塞化する沖縄、島々の記録」（集英社新書）を上梓。

◇フィルモグラフィ&賞歴『標的の村』2013年 | 日本 | 91分 山形国際ドキュメンタリー映画祭2013アジア千波万波部門正式招待 市民賞&日本映画監督協会賞／日本映画撮影監督協会第22回JSC賞／第87回キネマ旬報ベスト・テン文化映画第1位ほか『戦場ぬ止み（いくさばぬとどろみ）』2015年 | 日本 | 129分 山形国際ドキュメンタリー映画祭2015 インターナショナルコンペティション正式招待／釜山国際映画祭2015ワイドアングル部門ドキュメンタリー・コンペティション正式招待／第89回キネマ旬報ベスト・テン文化映画第2位ほか『標的の島 風（かじ）かたか』2017年 | 日本 | 119分 山形国際ドキュメンタリー映画祭2017特別招待／第91回キネマ旬報ベスト・テン文化映画第2位ほか『沖縄スパイ戦史』2018 | 日本 | 114分 *大矢英代と共同監督 釜山国際映画祭2018ワイドアングル部門ドキュメンタリーショーケース正式招待／山形国際ドキュメンタリー映画祭2019日本プログラム部門正式招待／第92回キネマ旬報ベスト・テン文化映画第1位／日本映画ペンクラブ賞2018年文化映画部門ベスト1／第42回山路ふみ子映画賞文化賞／文化庁映画賞文化記録映画部門優秀賞ほか